



学校だより

佐渡市立両津吉井小学校

平成30年1月 日

<1月号>

家庭・地域・学校、総掛かりの道徳教育を

校長 高橋 喜一郎

来年度から、道徳が「特別の教科」になります。これは、深刻ないじめ問題を発端にしたもので、教科化によりこれまで以上に充実させようという動きです。「あなたならどうするか」を真正面から問う「考え、議論する道徳への転換」を目指しています。道徳教育は、週1回の教科としての学習だけでなく教育活動全てで行うものであり、人格形成の根幹に関わるものです。学校教育の中核といってもよいでしょう。

当校でも昨年から道徳教育の全体計画の見直しを進めています。これからの変化の激しい社会を生きる子どもに、幸せに生き抜いていく力を育みたい、そのためにも、保護者、地域のみなさんの思いや願いを受けて一緒に計画をつくり、同じ方向を見ずえて共に道徳教育を進めていく必要があると強く思っています。

そこで、道徳教育に関する保護者アンケートを実施し、両津吉井小学校の教育を語り合う会で意見交換をしました。保護者が身に付けさせたい道徳的価値としては「親切・思いやり」「善悪の判断」が多かったです。また、教育を語り合う会では、「人の子を叱りづらい社会になっている」「子どもは耐える力が弱くなっている」「大人が手本になるようにしなければいけない」「教師の人生経験も大事にして教えてほしい」…といった意見が出されました。これらを受け、教職員で議論を重ね、方針と重点目標を次のようにしました。

1 道徳教育の基本方針

- (1) 教師は、自らの道徳性、人間性を高め続けることで、子どもの道徳性を養うことができる存在である。教師自身が「信頼される人間」を目指し、自己を磨き高めていく。
- (2) 子どもは、家庭、学校、地域で育つ。保護者や地域の大人が、それぞれの立場で、子どもの道徳性を養うかかわりをするのが重要である。家庭、地域、学校の大人が共に育ち合い、目的を共有して共に道徳教育を推進していく。
- (3) 夢・志（目指す生き方・あり方）をもたせ、実現する力を育みたい。様々な体験の充実と道徳科との関連を通して、夢・志の実現に向かう自己の生き方について考えるようにする。

2 道徳教育の重点目標

- (1) 向上心を持ち、自律的にやり抜く子（志を立て実現する力の育成の観点）
- (2) 思いやりを持ち、人の役に立つ喜びを感じる子（社会力の育成の観点）
- (3) 人としての善悪を的確に判断し、いじめや暴力・暴言を許さない子（いじめ防止の観点）

子どもたちの人間としての成長のために、家庭、地域、学校の我々大人たちが、人間としての生き方について考え、自分を高めつつ、語り合っていければと考えています。